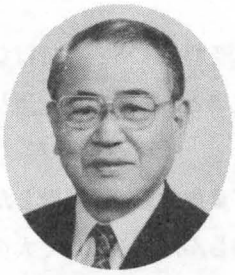
1．巻　頭　言



情報あぶれ者

学長　保　田　正　人

情報不足で損をし，ほぞをかんだことが研究生活３０年の間に何回かあった。外国文献を見落として発表に後れをとったこと，戦前より続けていた仕事が，戦後のどさくさで情報が取れず，結果的には北海道の研究者に先をこされて学位論文を作りなおしたこと，次の学会で私の研究の先報に続く内容が横取られて発表されているといった不愉快なことに出会った。工学や医学程に目まぐるしくない分野だけに，わりとおっとりと研究を楽しむことができ，独創的な考えや手法を生かすことができた。

コンピューターの発展も，宇宙開発時代にはいって，何と便利なものがとは思ったが，全く身近かに感じたこともなく，相も変わらずタイガーの手廻し計算機で，推計学の初歩的考察をやっていた。それがある時点で気付いてみたら，パソコン時代に突入していた。こうなるともうどうにも手をつける気になれず，プリンターから打ち出される紙片の訳のわからぬ数字が頭を悩ますだけで，見事にパソコンアレルギーにかかってしまった。それでも気の強さだけは残っていて，教務係の学生の成績なんか訳なく整理できると聞いて，文部省に出かけた。ぐずぐず学部改組とコンピューターの効能を並べたてていたら，たしか６００万円の金をぽんとくれた。恐らく聞かされる方も当時はズブの素人で，日頃うるさい奴が訳のわからん事をしゃべりたてるし，判らぬとも言えず，総会屋撃退よろしく面倒だからくれたのだろうと，今にして思いあたることである。これが失敗の最たるもので，業者の甘言通り購入したものの，当時はオペレーターになるような器用な事務官は皆無。係長は逃げてまわるし，結果はただの１回も使わないまま，私の教室に引き取った。ここでもソフトのプログラムが駄目で役に立たず，ただみてくれがいいので，今も室に飾っている。

それが近頃は全講座といってよい程パソコンやワープロがはいり，若い研究者，学生や事務官が楽しそうに扱っている。全く癪の種だが，管理職の辛さ，おおように「どうだね，わかるかね」と声をかけている。

日本の繁栄は，良く高レベルの技術者集団と，その技術を現場で生かす優秀な労働者群で支えられ，それに僅かな創造的人材が加わっていると云われる。このような人材構成が，日本の将来にどう響くか予測はむずかしい。今の大学のシステムが学ぶ教育中心で，ややもすると創造性の芽をつぶしているのではないかと危惧している。院生や学生の論文をみても，創造的研究の成果が少なく，殆ど手法や内容が先人の模倣のように思えてならない。臨教審も教育の情報化に対して，極度の機械化は人間同士や人間と自然とのつながりを減少させ，社会の求心力

が失われる恐れのあることを指摘している。といって私は情報システムを軽視するわけではない。むしろ情報過多を上手に整理し，無駄をはぶいて創造を教育する足場として上手に利用してもらいたい。

山田センター長の熱意はたいしたものだ。センター将来構想について貴重な意見を拝聴した。申し訳ないが，私の説明を聞いた文部省の事務官以上に理解するのに苦しんだ。とにかく大切なものだとの認識で整備拡充には万全の努力を払うつもりでいる。

世の中コンピューターやカード時代と言われながら，給料まで銀行振込みで，妻に管理が移り，自らの支払い能力を知るすべもない。後払いシステムのカードは財産管理ができないとヤバイものだと信じこんでいる私は，今使っているのが１，５００円の電車１台と安全な先払い式のテレホンカードのみである。そして若かりし頃，唯一のそして人間味のある情報源であった赤ちょうちんネットワークを今もって大切にしている。でも悪い時代で車の運転だの健康管理だのと言って，このネットワークの輪がじわじわと締められている。そのなかで，近代情報あぶれ者同士が世をはかなみながら，毎夜のように杯を傾けて，つたない情報交換を行っている。